

特別支援教育部



子どもたちへの切れ目のない支援と 自立に向けた支援の充実と推進を目指して

山形市立西小学校 武田 喜好

I はじめに

新設から4年目を迎える特別支援教育部会は、これまで、特別な支援を必要とする児童の増加や障がいの複雑化という現状から、専門性や担任力を備えた人材の育成、相談体制の充実について課題解決に向けた協議を重ねてきた。これまでの協議の成果と課題に基づき、子どもたちの自立に向けた支援、切れ目のない支援について理解を深める必要があると考え、研修を進めてきた。

II 活動計画

1 研究主題

子どもたちの自立に向けた支援、切れ目のない支援の充実と推進を目指して

2 活動方針

- (1) 主題に則って、特別支援教育の現状を把握し、必要な支援の在り方について研修を深め、成果や情報を校長会全体に発信していく。
- (2) 山形県の特別支援教育推進プランや山形市の新たな推進プラン案を受けて、校長会としての要望を伝える働きかけを行う。

III 活動内容

1 部会の歩み

第1回部会（4／11）

- ・活動方針、活動計画の作成、組織づくり

第2回部会（5／12）

- ・研修1「講話 特別支援学校と小学校の連携の在り方についてと効果的な支援の在り方について」（切れ目ない支援の具現化）

第3回部会 ～ 第5回部会

- ・東北連小山形大会準備及び報告業務

第6回部会（10／6）

- ・中心協議「講話 特別な支援を必要とする子どもたちの理解と支援～特別支援教育推進のための校長の役割～」＜詳細は裏面＞（上山市校長会と合同）

第7回部会（12／8）

- ・市特別支援教育推進プラン案についての確認と協議

第8回部会（R6 2／9）

- ・年間の振り返りと次年度の方向性の確認

2 具体的活動

(1) 市特別支援教育推進計画案の確認

山形市教育委員会との情報交換は、推進計画の策定が検討中の段階にあるとのことで今年度も実現に至らなかったが、推進プランについては内容を確認して、市教委担当者に校長会としての要望、提案等を伝えることができた。策定や推進、実施に向けた取り組みについては、市教委と連携をとり確認しながら進めていくようにする。

市プラン案の策定に向けた提言として

- ・前期プランの現状と課題が今回のプランにどのようにつながっているのか明らかにして策定を進める必要がある。
- ・「ことばの教室」をはじめ、まなびの教室（LD/ADHD通級指導教室）の持続可能な設置が急務である。
- ・特別支援学校との人事交流や人員の増員等については、データや根拠に基づ

いた適正配置をお願いしていく。

- ・特別支援のセンター機能をもつ機関の設置、就学時健診の保護者面談への市の参画
- ・発達支援、進学、就労についての情報共有
- ・特別支援教育支援ソフトの積極的導入 等を校長会から提言した。

(2) 10月定例校長会議 中心協議の話題提供

① テーマ

「特別な支援が必要な子どもへの支援の在り方について～特別支援教育推進のための校長の役割～」

② 内容

・講話

「特別な支援を必要とする子どもたちの理解と支援～特別支援教育推進のための校長の役割～」

・講師 宮城学院女子大学

教授 梅田 真理 氏

・講話内容

◇一人ひとりに合わせた支援を行うために、診断名にこだわらず一人一人の状態を良く「見る」こと

◇それぞれの障がい(ADHD・ASD・LD)の特性と子どもたちの困難さへの対応

◇校内体制の充実のためには、職員間で連携(子どもの実態の共通理解と目標の共有)すること

◇管理職が校内チーム作りのバックアップをすること

◇子どもの自立に向けて大切なことは、子ども自身が自分に合った学習のスタイルを見付けること

◇教師の大切な役割は、それを手伝い、見守り、認めること

・グループ協議(中学校区ブロックで)

◇各校の特別支援教育の現状と課題についての情報交換と校長としての役割についての協議、確認



3 研修

講話 特別支援学校と小学校の連携の在り方についてと効果的な支援の在り方について

講師 山形県立村山特別支援学校

校長 草間 智弘 氏

◇部会内での研修

- (1) 県では、就学と就労について重点化を図って特別支援教育の推進に取り組んでいる。
- (2) 児童生徒の実態をもとに、関係機関で合意形成を図っていく必要がある。
- (3) 教育の切れ目をなくすために、特別支援学校と特別支援学級、通常学級との共同、協働、協同が必要になってくる。連携の充実を図る。
- (4) 外部専門家としての作業療法士との連携について情報をいただき京都作業療法士会特別支援教育 OT チームの編集した資料から実際の支援についての情報を共有することができた。

IV おわりに

市の特別支援教育推進プラン策定に加え、特別支援教育の推進に向けて適正な人的配置、若手育成が求められている。市の特別支援教育の実情に資する推進と改善が一層図られるように、本部会の実践を通して、各小学校等への積極的な情報や提案を発信していく。

特別支援教育部員

◎武田 喜好(西 小) ○須藤 征治(出羽小)
佐藤 昌彦(山三小) 横山 聡(南 小)
古原 靖子(東 小) 伊藤 顕吾(附属幼)